

□ 声に出して楽しもう 言葉

声に出してなんども読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。
気に入ったものは、おぼえて言ってみましょう。

かすみ たつながきはるひに こどもらと
てまりつきつつ このひくらしつ

むしのねものこりすくなになりけり
よなよなかぜのさむくしなれば

(良寛)

古池や蛙飛びこむ水の音

閑かさや岩にしみ入る蟬の声

(松尾芭蕉)

菜の花や月は東に日は西に

春の海終日のたりのたりかな

(与謝蕪村)

やれ打つな蠅が手をすり足をす

雪とけて村いつばいの子どもかな

(小林一茶)

•東

「ながき」「くらし」
「なご、むかし」
の形がのこっているものを「文語」といいます。

□ 声に出して楽しもう 言葉

雀の子そこのけそこのけ御馬が通る

(小林一茶)

夏河を越すうれしさよ手に草履

(与謝蕪村)

名月や池をめぐりて夜もすがら

(松尾芭蕉)

君がため春の野に出でて若菜摘む我が衣手に雪は降りつつ

(光孝天皇)

田子の浦に打ち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ

(山部赤人)

これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関

(蝉丸)